

Title	英文論文執筆の為の若手講習会
Sub Title	Workshop for young reserchers to write reserch papers in English
Author	一方井, 祐子(Ikkatai, Yuko)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2009
Jtitle	活動報告書 Vol.3, (2009.) ,p.25- 25
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章 : シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20100300-0025

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

英文論文執筆の為の若手講習会

Workshop for Young Researchers to Write Research Papers in English

1

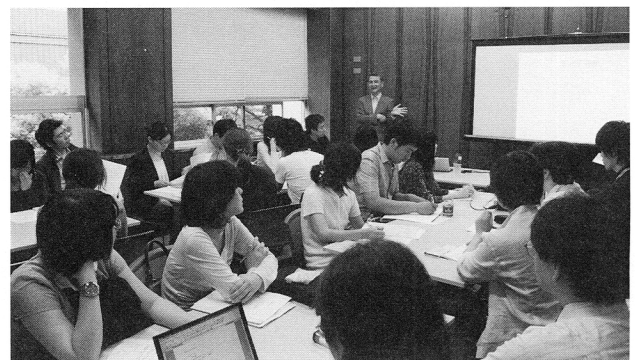
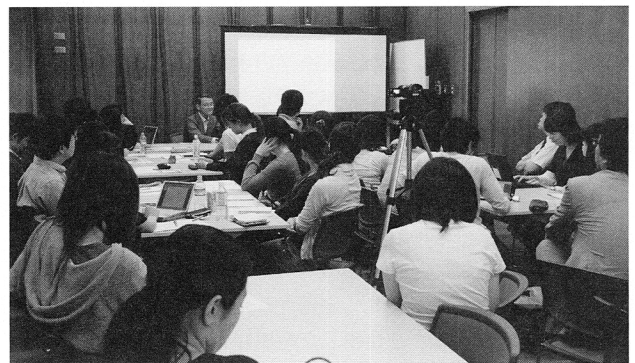
開催日 2009年5月13日
企画 研究成果発信支援・プログラム委員会
講演者 小嶋祥三（脳と進化班）

2009年5月13日、慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟において「英文論文執筆の為の若手講習会」が開催された。当日は塾内外の大学院生を中心に非常に多くの出席があり、スタート直後に急遽座席数が増設されたほどであった。参加者の中には英文論文執筆経験のない学生も多く、「英文論文執筆」への高い意識が伺えた。

講習会は前後半に分かれており、前半ではグローバル COE 事務局から、若手研究者発信支援の事務手続きが説明された。後半では小嶋祥三先生から英文論文掲載までの流れが説明された。執筆や再投稿等の過程が具体的に説明されたが、それは論文執筆経験のない者にとっても大変分かりやすいものであった。また、引用度数の高い論文執筆を目指すことに関連して各種データベースの使用法や Impact Factor (IF) の意味が説明された。IF を考慮することはもちろん重要であるが、それ以上に長く多数回引用される「良い論文」を目指すことが強調され、英文論文執筆を習慣付けることの大切さが繰り返し述べられた。確かに今の私にとって英語という第二外国語は一つの壁である。しかし、英語云々の前に論文執筆という行為さえ習慣付いていない、ということも今の私の正直なところなのだろうと思った。講習会の最後には、昨年度と同講習会を機に英文論文執筆を行った大学院生の例などが紹介され、私自身も大いに刺激を受けた。今回の講習会を通し、英文論文に関しては、まずは動いて（書く）慣れていくことが大切だということを再認識した。

(一方井祐子)

A “Workshop for Young Researchers to Write Research Papers in English” was held in Keio University on May 13, 2009. Professor Kojima specifically explained the importance of writing in English. Many participants, who are graduate students, listened eagerly and attentively to his lecture. Professor Kojima repeatedly emphasized that writing research papers in English should become a habit among young Japanese researchers, in order to transmit their findings to the world. Writing itself is enough a big challenge for me, even more in English! However, because of this lecture, I have come to feel that I should not shrink from English, but try to write as best as I can, until I get used to it.



CARCS
慶應義塾大学グローバルCOEプログラム
論理と感性の先端的教育研究拠点

英文論文執筆のための講習会

日時：2009年5月13日（水）13:30~14:30
場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 研究室棟 B 会議室
対象：若手研究者、大学院生、学部学生を問いません

【当日の概要】

- Global COE における若手研究者発信支援（事務手続き）
- なぜ、英文論文が必要か
- 論文掲載までの流れ
- 投稿前：文献の検索、執筆、英文校閲、投稿
- 投稿後：採否判定、改稿要求、reviewer とのやり取り、受理
- 「長生きする」論文を Web of Science
- 雑誌の選択 - Journal Citation Reports
- Reject を回避する
- 今後について

※会費無料・事前登録不要：皆様の参加をお待ちしております

主催：慶應義塾大学グローバルCOE 論理と感性の先端的教育研究拠点
研究成果発信支援・プログラム委員会
お問合せ：慶應義塾大学グローバルCOE 論理と感性の先端的教育研究拠点 事務局
電話：03-5427-1156 E-mail: keio@info.keio.ac.jp